

第 38 回(令和 4 年度 第 3 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 令和 5 年 2 月 10 日 (金) 14 : 00 ~
- 場 所 黒部市役所 202・203 会議室
- 出席者 協議会委員 17 名

出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	武隈 義一	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	新庄 一洋	本人出席	
		黒部市タクシー協会会長	神谷 尚機	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社 専務取締役・総務企画部長	助野 吉昭	本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	川口 歳則	所長代理 岩井光彦	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	浅野 健一	本人出席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	大上戸 久雄	本人出席	副会長
		黒部市民生委員児童委員協議会長	田村 豊嗣	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	此川 昇	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会長	辻 順子	欠席	
	政策支援 アドバイザー	中央大学工学部都市環境学科教授	原田 昇	欠席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	玉巻 史成	欠席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	菅原 幸三	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	山倉 澄雄	首席運輸 企画専門官	廣井和幸
		富山県交通政策局交通戦略企画課長	有田 翔伍	本人出席	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	事務理事 島 武夫	
		一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事	川端 康夫	事務局長 坂井英次	
Y K K 株式会社 副社長 黒部事業所長		浅野 慎一	本人出席		
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長		石橋 剛	本人出席		
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席			

- 事務局：黒部市都市創造部都市計画課：山本部長、小森課長、山崎班長、櫻田班長補佐、田村主任、井田技師
- (株)新日本コンサルタント：大門、茂木

## 会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ（会長 武隈黒部市長）
- 3 報告事項
  - (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
  - (2) 路線バス動態調査の報告について・・・・・・・・資料 2
  - (3) 地域公共交通計画への移行スケジュールについて・・・・資料 3
  - (4) 公共交通を補完する移動手段の検討について・・・・資料 4
  - (5) 南北循環線・新幹線生地線のバス停一部変更について・・・・資料 5
- 4 協議事項
  - (1) 池尻線の事業計画の変更について・・・・・・・・資料 6
- 5 その他
- 6 閉 会

## 開会

○進行：小森課長

## あいさつ（武隈市長）

●会長よりあいさつを行った。

本日は、第 38 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、ご出席いただき感謝を申し上げます。また、日頃より本市の公共交通計画にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、年末年始の交通機関、特に北陸新幹線については、これまでの厳しい移動制限がなされなかったことから、利用者数 25 万 4 千人で、コロナ禍前の約 8 割まで回復したと聞いている。しかしながら、年明けから第 8 波の広がりが見えつつある。現在、状況は少し落ち着いているが、今後も対策を徹底した上で、感染状況に応じた、移動制限のバランスを取っていくことが大事だと考えている。

話題は変わるが、今年は本市の宇奈月温泉の開湯 100 周年の年であるが、宇奈月温泉は、黒部川の電源開発が契機となって、大正 12 年に開湯した。鉄道についても、大正 11 年に現在のあいの風とやま鉄道黒部駅と下立駅を結ぶ黒部鉄道が運行を開始し、さらに大正 12 年に下立駅・桃原駅（現宇奈月温泉駅）が開通した。これが現在の地鉄電車となっており、こちらについても今年が 100 周年の年だと考えている。このように宇奈月温泉の歴史には、鉄道等の公共交通が密接に関わっており、観光地へのアクセスには、公共交通はなくてはならないものとなっている。

さて、本日の議事だが、報告事項が 5 件、協議事項 1 件となっている。

報告事項については、「路線バス動態調査の結果」や「地域公共交通計画策定のスケジュール」などとなっている。協議事項については、「池尻線の事業計画の変更」について、皆様の忌憚のないご意見を賜りたいと思う。

本日はよろしくお願ひ申し上げます。

## 報告事項

- (1) 経過報告
- (2) 路線バス動態調査の報告について
- (3) 地域公共交通計画への移行スケジュールについて
- (4) 公共交通を補完する移動手段の検討について
- (5) 南北循環線・新幹線生地線のバス停一部変更について

●事務局より、資料 1～5 に基づき、上記の報告事項について説明を行った。

○此川委員

石田三日市線利用者のうちの KOKO くらべ利用者数については調査しているのか。調査しているのであれば、どのような結果になったのか教えていただきたい。

○事務局

石田三日市線利用者のうちの KOKO くらべ利用者数については調査していないが、現在 KOKO くらべに乗り入れているのは生地循環線のみであるため、石田三日市線の利用状況については大きな変化はないかと思う。ただ、今後は、温浴施設の整備などに合わせ、他路線の乗り入れやバス停の新設についても検討したいと考えている。

○浅野委員

石田三日市線に KOKO くらべ利用者用のバス停を追加しないのは何か理由があるのか。

また、今回のアンケートから生活利用が多いといった結果をもとに、各路線の課題についてまとめ、対策について検討しているかと思うのだが、具体的な対策の方針があれば説明していただきたい。

○事務局

まず、1 つ目の質問について、KOKO くらべへの乗り入れやバス停の追加については今後も運行事業者との協議が必要だと考えている。特に現在は、付近の温浴施設の建設も進んでいるため、そのことも踏まえたうえで、バス停の位置等について運行事業者との協議を進めていきたいと思う。

次に 2 つ目の質問について、今回の資料のまとめは調査結果を示すものであり、具体的な対策の方向性については、作業部会等のなかで運行事業者との協議をした上で決めていきたいと考えている。

## ○浅野委員

KOKO ころべが開業してからしばらく経っており、温浴施設の完成を待っているのは更に時間を要してしまうため、暫定的にバス停の設置を進めるといったことはできないのだろうか。何かしらの認可が必要なのであれば、運輸局に教えていただきたい。

次に、具体的な対策については作業部会で協議をしていくとのことだが、前回の作業部会ではあまり進展がなかったと聞いている。また、以前、書面協議でもコメントしたが、実施したことは分かるのだが、どのような内容なのかまでは分からないため、いつまでにどのような内容で進めるのか計画を立てたうえで、進めていただきたい。

## ○廣井委員

認可関係の説明だが、ルートの変更については、今回のような協議会の場で、皆さんの承認を受けたうえで、認可を取得するといった流れになっている。バス停の設置については、公安委員会や道路管理者に設置が可能か確認しながら進めていただきたいと思う。

## ○新庄委員

バス路線の動態調査について、資料 2 ページ目にて、石田三日市線、池尻線、愛本コミュニティタクシーは最近 2 年間の乗降データも整理していると記載があるが、この乗降データと今回の調査結果は同様のものなのだろうか。今回の調査結果は、車内で配布し郵送による回収としているため、結果に偏りが出してしまう可能性がある。そのため、乗降データを活用した方が満遍なくデータが収集できるのではないか。

次に今回の調査路線では、通学での利用がほとんどないようだが、沿線の高校や黒部市外の高校に電車で通っている学生はどのような移動手段を使っているのか把握しているのであれば教えていただきたい。

## ○事務局

まず、調査結果と乗降データについてだが、各データの乗降バス停の傾向に大きな違いは見られなかったが、新庄委員の発言の通り、今回の調査は郵送回収式のアンケート調査であるため、回答の偏りが生じている可能性はある。そのため、今後は乗降データについても頂いているものは整理していきたいと思う。なお、動態調査では利用目的の把握を大きな目的と考えている。

また、学生の利用については、中学生以下はスクールバスの利用が考えられる。高校生や大学生については、特に調査を行っているわけではないが、家族による送迎が多いのではないかと考えられる。

## ○新庄委員

そうであれば、高齢者の買い物や通院には対応出来ているが、高校生以上の学生の移動には対応できていない状態だと考えられる。もし、その点について、地域から要望があれば、作業部会等の場で検討しても良いかと思う。

## ○野村氏（くろべ交通）

当社ではデマンドタクシーと、池尻線と生地循環線の積み残しのフォローを担当している。その現場の立場から発言するが、通学での路線バス利用者はある程度存在していると考えている。

その理由としては、路線バスの利用者間で調整され、時間に制約がある学生の通学利用者を優先的にバスに乗せ、時間に制約があまりない買い物目的の利用者が積み残しとなり、タクシーのフォローを受けているといったやり取りが報告されているからである。そのため、通学利用といった観点も外すことはできないと考えられる。

## ○事務局

通学については個別に調査をしていない状況であり、我々の方では送迎しているといった話を聞いているが、今回、野村氏の発言から、路線バスを利用しているケースについても把握することができた。今後は更に丁寧な調査を実施していくよう努めようと思う。

## ○有田委員

資料 3 黒部市地域公共交通計画への移行スケジュールについて、県でも地域交通戦略の策定を進めており、昨年から全 14 回の協議会を開催しその結果を踏まえ、具体的な指針についてのとりまとめを行ったところである。その中で、特に鉄道や駅についての重要性も盛り込んでおり、各自治体がどのように関与していくのか、どのようなことが重要になってくるのかを一定の方向性でまとめているので、来年度の計画策定にあたり、県の計画との整合性を図れるよう連携していただきたいと思う。

また、燃料高騰対策について、タクシー、バス、鉄道の燃料高騰に対する支援を計上しているため、引き続き各自治体においてはご協力をしていただきたいと思う。

## ○武隈会長

県の地域交通戦略と各自治体での連携の必要性は理解しているが、もし、連携していくのであれば、先ほどの発言にもあった計画策定に向けた協議会には、各自治体からの参加者がいるべきだと思う。その点についてはどのようにになっているのか教えていただきたい。

## ○有田委員

当該協議会には、黒部市を含め、各自治体からの参加者が入っている状況となっている。

## ○武隈会長

承知した。黒部市地域公共交通計画については、県の計画と連携していける内容で進める。燃料高騰対策については、なるべく丁寧な議論を求めるような意見があったことをこの場で報告する。

## ○浅野委員

黒部市内の買い物移動では、行きは路線バスやデマンドタクシーを活用しているが、帰りは普通のタクシーを利用している方が多く見受けられ、なぜ帰りはデマンドタクシーを利用

しないのか疑問に感じている。デマンドタクシーの利便性を向上させるなどは出来ないのか。

○有田委員

まず、デマンド交通の一般的な考えとしては既存の交通サービスとの住み分けが重要である。その中で、買い物をする場合では、出発の時間はある程度予定が立てられるため、事前にデマンドタクシーの予約ができるが、帰りの時間については、人によっては予定が立てにくく、事前に予約ができない。そうなった場合にデマンドタクシーを即呼び出し可能なサービスにしてしまうと、既存のタクシー事業との住み分けが出来なくなってしまう。そのため、予定が立てやすい移動はデマンド交通や路線バスを利用し、予定が立てにくい移動にはタクシーを利用するといった形で住み分けをしているかと思う。

○浅野委員

高齢者のなかには買い物に行くことが難しい方もいると思うので、より多くの人が外出できるような体制づくりに努めていただきたい。県としても様々な施策を考えているかと思うので、それについて各自治体と共有していただきたいと思う。

○野村氏（くろべ交通）

デマンドタクシーの利用者について、弊社が担当しているデマンドタクシーでは、買い物利用は行きも帰りも予定が立てやすいため、両方予約される方が多い。一方で医療施設では帰りの時間が読めないため、予約の段階では大体の予想で時間を伝え、当日に時間の調整が必要になった場合は予約変更という形で対応している。

○武隈会長

予約変更に対応している件については、周知していただきたいと思う。

○事務局

原田委員よりコメントを預かっているので報告する。

「資料 2 について、各路線の利用目的や生活路線の重要度、代替手段との関係性が読み取れる貴重な資料となっている。この実態把握資料と資料 4 の公共交通を補完する移動手段の検討が結びつくことを期待している。また、家族等の送迎のなかに含まれている同一世帯外の運転手による送迎、いわゆる世帯間同乗の活用も視野に入れてほしい。具体的に群馬県で実施された分析では、免許を持たない一人暮らしの高齢者に限定すると世帯間同乗が 2 割を超えており、このことから世帯間同乗の活用が望ましいと考えている。」

○武隈会長

原田委員の意見も踏まえたうえで、公共交通を補完する移動手段について検討をしていただきたい。

○浅野委員

KOKO くろべの停留所については、なるべく早めに方向性を定め、設置するのであれば、い

つまでに設置するのか決めた上で、協議会で示してほしい。私としては温浴施設の完成を待つ必要はないと思っている。

もう 1 点補足だが、資料 5 の I-TOWN 前に新設するバス停については、2024 年 4 月に新設される踏切の開通に合わせ、移設をする予定となっている。

○武隈会長

他に意見がなければ、報告事項は以上とする。

## 協議事項

### (1) 池尻線の事業計画の変更について

●事務局より、資料 6 に基づき、池尻線の事業計画の変更について説明を行った。

○野村氏

先ほども申したように弊社は池尻線の積み残しのフォローを行っている。その現場の立場から発言するが、中型バスの導入については正しい判断かと思う。ただ、積み残しは、上りで 1 便と 3 便、下りで 6 便と 8 便で発生しており、特に通学のことを考えると 1 便目は中型バスでの運行が望ましい。運行事業者の車両運用の事情もあるかと思うが、実績に合わせた中型バスの運用を考えていただきたい。

○此川委員

積雪の多い冬期間（12 月～翌年 3 月）は、運行を行わないとのことだが、除雪の体制が整っていないということなのか。もしくは他になにか事情があるのだろうか。

○事務局

除雪の体制が整っていないわけではなく、乗客の安全を配慮し、冬期間の運行は行わない方向となっている。

○新庄委員

福平地区のまでの延伸は地域住民の要望があったのか教えていただきたい。また、本件については効果の検証をしながら事業を進めていただきたい。

○武隈会長

地域住民の要望については肌感覚であるが認識しており、私の方からも利用を呼び掛けていきたいと考えている。また、効果の検証は運行していく中で、実施していくつもりである。

また、冬期間については乗客の安全第一を考え運行しない方向性であるが、実際に運行をしながら、今後の方向性について検討していきたいと思う。

原田委員からはなにか意見をいただいているか。

○事務局

本件については特に意見をいただいてはいない。

○武隈会長

それでは、他に特に意見がなければ本件については承認ということで進めさせていただく。

## その他

○菅野委員

3月11日より販売するワンコイン・フリーきっぷについてだが、新幹線の影響で知名度は上がってきているものの、実際に乗る人は少ない状況である。YKK等の企業の皆様にはチケットを購入していただいているが、それでも苦しい状況である。そのため、皆様の知り合いに声掛けして、一人でも多く利用していただきたく思う。できれば、マスコミやあいの風とやま鉄道にもPRに協力していただきたい。

○浅野委員

ワンコイン・フリーきっぷは初日の利用者は多いものの、その後のイベントに合わせた運行では利用者が少なくなっている。こういったイベントであれば弊社内でも宣伝するので、声掛けしていただきたい。

○武隈会長

他に質問や意見がなければ、その他の事項は以上とする。

## 閉会（事務局）

●事務局よりあいさつを行った。

武隈会長には、円滑な議事運営をいただき感謝いたします。以上をもって第38回黒部市公共交通戦略推進協議会を閉会とします。本日は、誠にありがとうございました。

以 上